

シカ捕獲の効率化について

～熟練職員の技を受け継ぐ～



安芸森林管理署

総務グループ 係員 小林 風賀

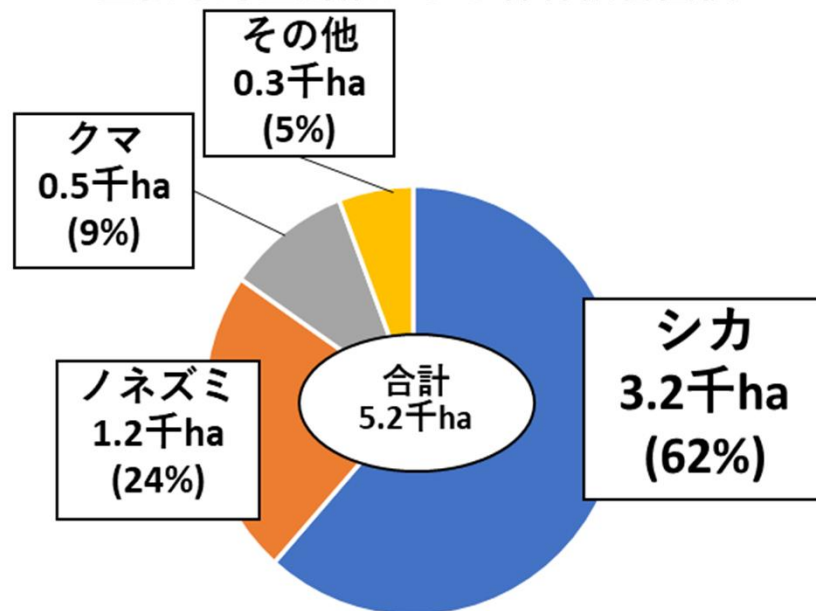
治山グループ 係員 村上 烈士

背景①～シカによる被害～

問題・課題

- 令和5年度における、シカやノネズミ等の野生鳥獣による森林被害面積は全国で約5千ヘクタール
- このうち、シカによる枝葉の食害や剥皮被害が全体の約6割を占める深刻な状況

主要な野生鳥獣による森林被害面積



自動撮影カメラで撮影されたシカ（安芸・入河内森林事務所管内）



背景①～シカによる被害～

被害額は減少傾向がみられるが、依然として高い水準



引き続き、シカの捕獲を進める必要がある！

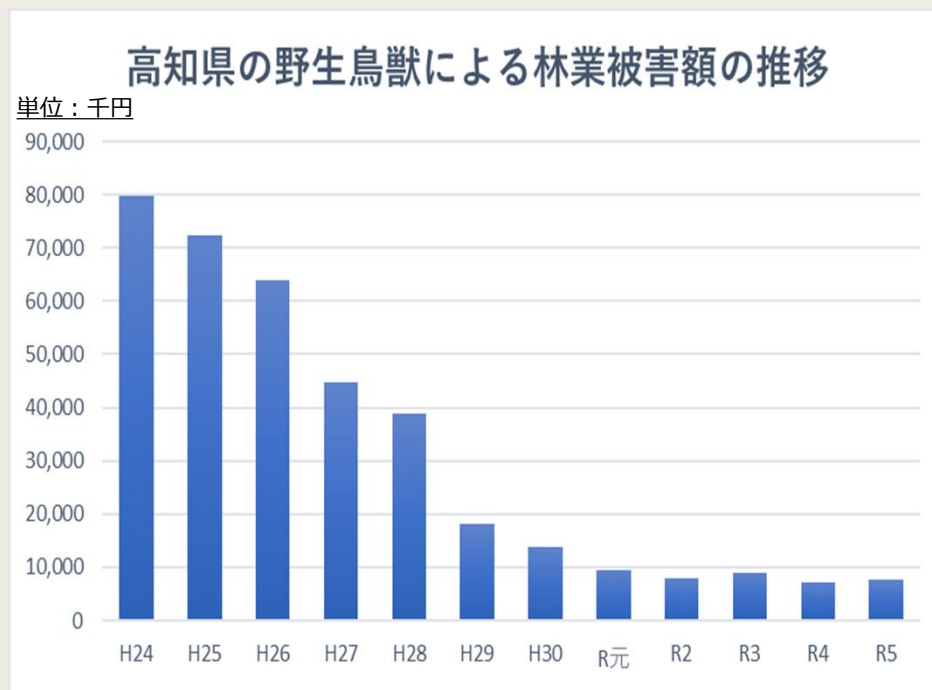


表4. 高知県全県におけるシカの生息状況

	全県
推定自然増加頭数 (90%信頼限界)	16,556 頭 (7,286 頭～25,407 頭)
推定自然増加率 (90%信頼限界)	21.5% (7.9%～33.0%)
<u>推定生息数</u> (90%信頼限界)	<u>74,747 頭</u> (52,070 頭～112,392 頭)

背景①～シカによる被害～

対策

- ・ シカネットなどの防護柵の設置
- ・ 単木保護による食害対策
- ・ くくり罠や箱罠によるシカ捕獲



シカ被害を減少させるためにシカ個体数の減少を目指す

背景②～シカ捕獲技術の根絶のおそれ～

問題・課題

経験豊富な職員の方の退職に伴い、培ってきたシカ捕獲に関する現場での知識や経験などの技術が受け継がれることなく途絶えてしまう



受け継いでいく必要がある

取組内容

- 実際に現場で経験豊富な職員の方から、罠の仕掛け方、仕掛ける場所等を学ぶ
- 小林式誘因法との比較
- 自分たちで罠を仕掛けて、どのようにすれば初心者でも効率的・効果的に獣道に仕掛けられるか研究・検証

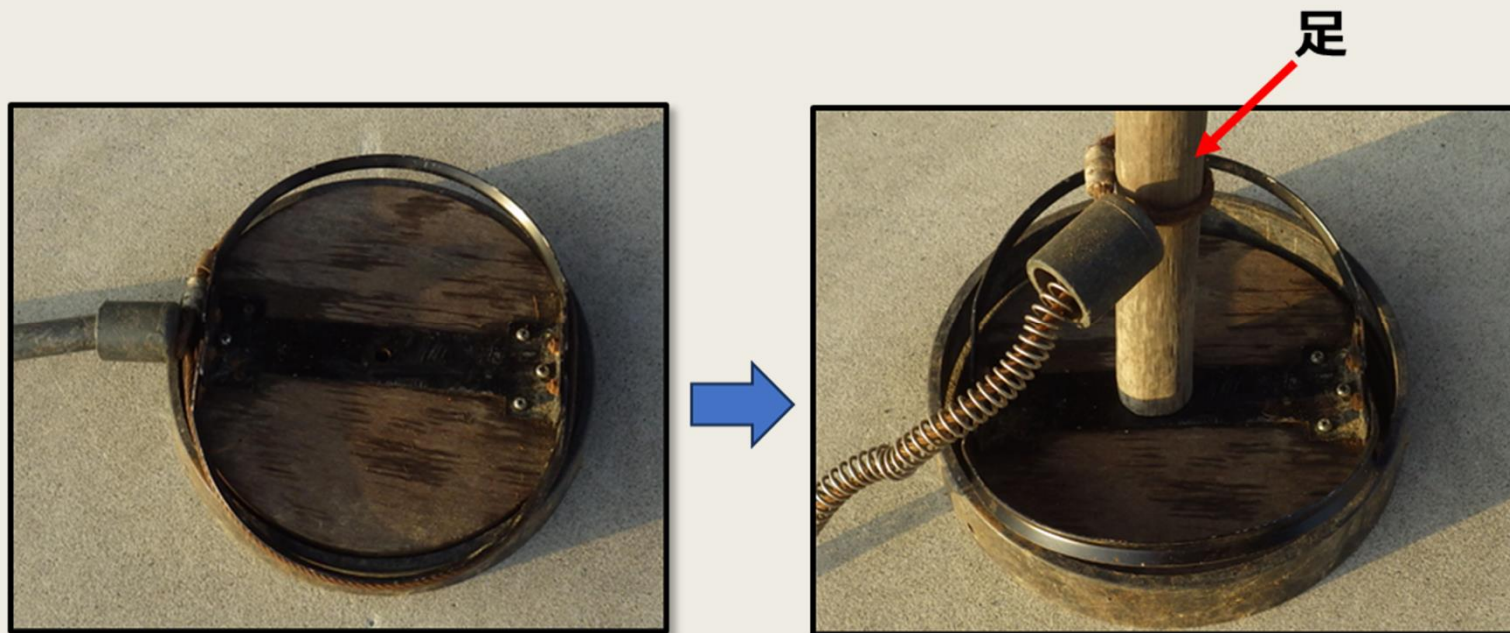


実施場所（安芸森林管理署管内）



今回使用した罠 ～くくり罠（笠松式）～

- 踏み板を動物が踏むことで罠が作動し、バネの力によって足がワイヤーに締めつけられる構造



罾の仕掛け方（獣道に仕掛ける）

5月～9月に実施



獣道※



くくり罾

- ・シカが罾を踏みやすいように跨ぎ木を設置！
- ・2週間仕掛けてもかからない場合は撤去

※獣（けもの、野生動物）が通ることによって自然にできる道

罾の仕掛け方（小林式誘因法）

5月～9月に実施



ハイキューブ

小林式誘因法



周りの様子

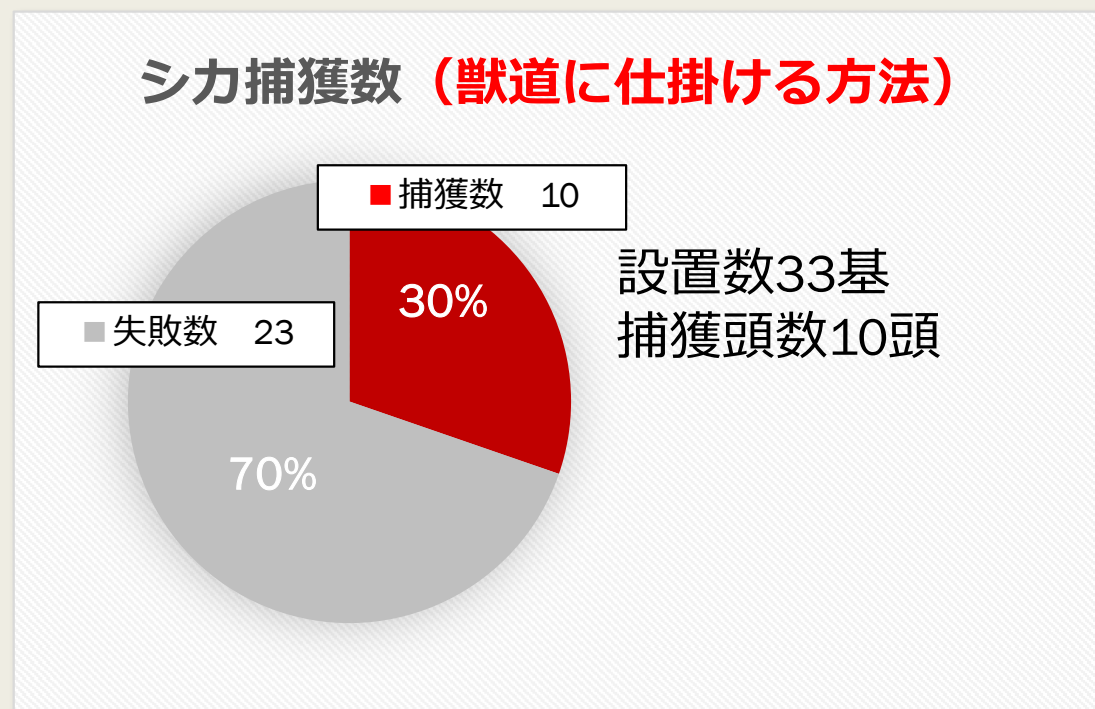
小林式誘因法…林野庁職員の小林正典さんが考案したシカが餌を食べる際に、口元へ前足を置く習性を利用し開発した捕獲方法

実施内容

場所	罾の仕掛け方	
	獣道に仕掛ける方法	小林式誘因法
河又柄尾山	6	5
裏正山	10	5
朝日出山	17	10
計	33	20

合計53基

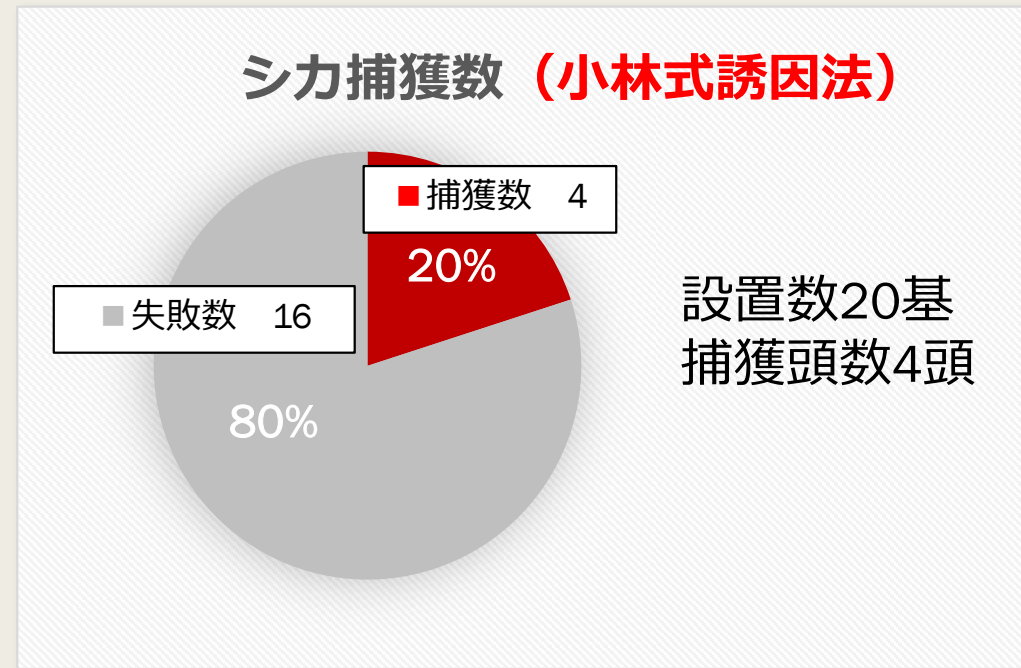
結果・考察～獣道に仕掛ける方法～



【考えられる要因】

- 経験豊富な職員の方の教えを元に獣道を探し、シカの痕跡がある場所に仕掛けたため捕獲することができた。

結果・考察～小林式誘因法～

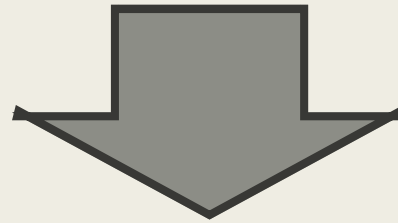


【考えられる要因】

- 小林式誘因法を行った5月～9月は餌が豊富にある時期であり、誘因効果が薄かった。
- シカの警戒心が高く、わな周囲に配置した工サや石を警戒していたことが考えられる。

判定

- 初心者が何も指導を受けずに獣道に罠を仕掛けるのは難しいが、小林式誘因法は指導を受けなくてもマニュアルを見れば、捕獲することができる。
- 経験豊富な職員の方の指導を受けた後に自分たちで獣道に罠を仕掛けたほうが、捕獲率が高かった。



経験豊富な職員の技術をまとめたマニュアルは必要！

マニュアルの作成

今回は誰でも簡単に獣道に罠を仕掛けてシカが取れるというコンセプトのもと作成。罠の仕掛け方、仕掛ける場所、痕跡のを見つけ方等についてマニュアルを作成し、シカ捕獲にあたり特に重要な罠を仕掛ける場所に焦点を当てている。

これで、仕掛ける場所の選定が容易になり、効率的に罠を仕掛けることが可能！

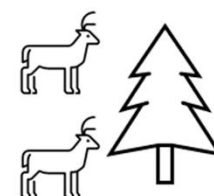
(注)

このマニュアルを読んだだけで、確実にシカが取れるようになるとは限りませんが、上達のために参考になると思うのでぜひ活用してください！

シカ捕獲マニュアル【設置編】



四国森林管理局 安芸森林管理署
総務グループ 小林 風賀
治山グループ 村上 烈士



マニュアルの紹介

目次

1. 代表的なくくり罠の紹介
2. おすすめ
～跳ね上げ式（笠松式）～
3. 捕獲の流れ
4. 罠の設置場所
5. 設置場所の参考例
6. 各部品の名称
7. 事前準備
8. 罠の仕掛け方（笠松式）
9. 罠を仕掛ける際のコツ

はじめに

- このマニュアルは、経験豊富な職員の方の捕獲技術を継承すべく作成したものです。
- 初心者の方でもわかりやすいように罠の仕組みから、仕掛ける際のコツまで詳しく書いています。
- このマニュアルをきっかけに捕獲を初めていただければ幸いです。



罾の設置場所

くくり罾の設置に適した場所

- ・ くくり罾を固定する木などがある
- ・ 獣道の幅が狭い場所（置き場所を決めやすい）
- ・ 見回りがしやすい
- ・ シカの足跡がある（写真①）
- ・ シカの糞がある（写真②）



（写真①）

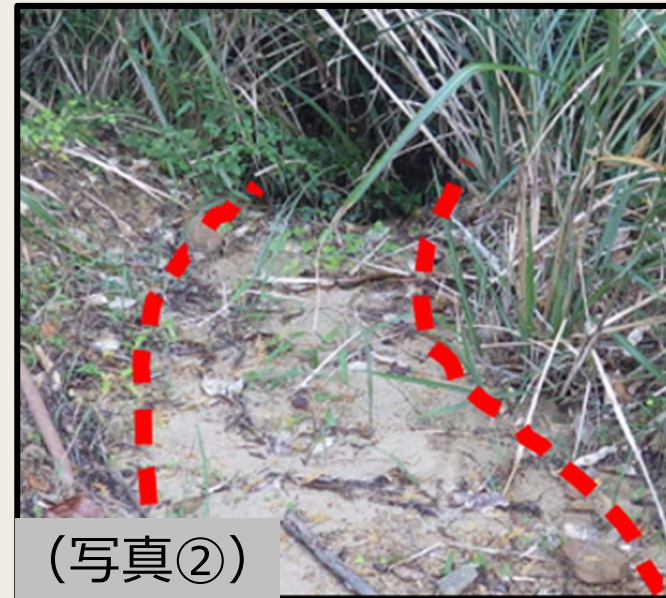


（写真②）

罾の設置場所

くくり罾の設置に適していない場所

- ・ 人が頻繁に利用する場所
- ・ 急斜面
- ・ イノシシの掘り返しの跡がある（錯誤捕獲を防ぐため）（写真①）
- ・ 水の通り道（罾がすぐに露出する）（写真②）



設置場所の参考例

獣道の合流地点に設置



段差がある場合は段差の下に設置



罨の仕掛け方（笠松式）

①安全ピンを入れ、ワイヤーを溝にかける



②スプリングのすべてが中に入るまで後スプリングガードを引っ張り、ワイヤーストッパーで固定する



③設置場所を選定したら、近くの立木の幹や根に繋ぎ止める



④深さ5cmほどの穴をほり、落としパイプを設置する



⑤踏み板を置いて安全ピンを抜き土かぶせる



⑥罨を踏みやすいように跨ぎ木を置いて完成



罠を仕掛ける際のコツ

- 小石、枝をかぶせるとかかった時に挟まり、空ハジキ（作動したのに捕獲できていない）の原因になることから、踏み板の部分は土をかけて隠す。
- 罠を隠す際に周りの土や落ち葉を使うとシカが警戒することから少し離れた場所の物を使う。
- 罠を置いた後に、シカが障害物を避けて歩くという習性を利用して罠の前後に石や木の棒をおくと良い。



まとめ

- 今回はシカ捕獲の流れをマニュアル形式で作成し、初心者にとって一番難しく、時間のかかる罠の設置場所について重点的に説明している。
- 経験豊富な職員の方の教えを元に作成したマニュアルを活用することで、初心者でも罠の設置場所の選定が容易になる。



シカ捕獲数増加による森林被害の減少

今後の予定

- 今後は、さらなるシカ捕獲効率化のためにも、シカの痕跡把握と捕獲データ等の収集と分析を行うとともに、様々な罠を使用し、検証していく。
- シカの止めさしをする際の精神的負担に対するメンタルケアについても対策を考えていきたい。
- 罠の仕掛け方を中心に捕獲までのマニュアルを作成した。今後は、捕獲後の止めさし及び埋設等についての【捕獲編】マニュアルについても随時作成していく。